

岡本台病院

病院の概要

地域精神医療の基幹病院として、精神科一般診療やアルコール依存症の診療、デイ・ケアの実施をはじめ、自傷他害のおそれがある患者や休日・夜間時の精神科救急患者等の積極的な受入に努めるとともに、精神障害者の早期の社会復帰を促進しています。また、心神喪失者等医療観察法(※)に基づく「鑑定入院医療機関」及び「指定通院医療機関」として対象患者を受け入れています。

※ 心神喪失者等医療観察法：正式名称は「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」といい、心神喪失又は心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った者を対象として、社会復帰を継続的に支援・促進することを目的としています。

平成24年度の主な取組

- ◇ 「改革プラン」の数値目標を達成するため、経営改善に努めました。また、地域連携ネットワークの充実・強化、政策医療の推進を図りました。
- ◇ 心神喪失者等医療観察法に基づく「指定入院医療機関」に必要な病棟が平成25年2月に完成(平成25年6月開棟)しました。職員の研修や先行施設の調査の実施、運営に関するマニュアルの整備など、開棟に向け準備をしました。
- ◇ 精神障害者地域移行・定着支援については、平成24年度から個別給付化され、市町の事業に移行されましたが、当院では長期入院患者に対して引き続き継続的な支援を行っています。また、宇都宮市障がい者自立支援協議会連絡会に参加し、地域の関係機関と連携した生活面での支援体制の充実を図りました。
- ◇ アルコール依存症の患者さんや家族などを対象として、家族教室、断酒会、ストップクラブ等の運営支援などを行いました。また、地域の要請に応じて「アルコール予防講演会」なども行いました。
- ◇ 開かれた病院、地域に根ざした病院づくりを目指し、岡本台病院ふれあい祭りを開催し、患者さんや関係団体等による作品展示や模擬店の出展のほか、医療相談やアルコール相談を行いました。
- ◇ 患者さんの希望を尊重した上で、薬の院外処方を推進しています。



2月に完成した新病棟(第7病棟)



ふれあい祭り

がんセンター

病院の概要

県内唯一のがん専門病院として、さまざまな領域のがん専門医と多職種のスタッフが連携して高度なチーム医療を提供しています。また、都道府県がん診療連携拠点病院(※)として県のがん医療のレベルアップに中心的な役割を担って活動しています。

※ 「がん診療連携拠点病院」とは、全国どこでも質の高いがん医療を患者に提供することを目的として、原則として2次医療圏に1カ所、厚生労働大臣から指定を受けた病院です。そのうち、「都道府県がん診療連携拠点病院」は、県内のがん医療の先導的役割を担うとともに、県内のがん診療連携拠点病院間の連携における中心的役割を担う病院が指定されます。

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan_byoin.html (厚生労働省ホームページ) (外部サイトへリンク)

平成24年度の主な取組

◇ 都道府県がん診療連携拠点病院としての取組

- がん医療の均てん化を推進するために栃木県がん診療連携協議会を開催しました。
- 5大がん(肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん)の地域連携クリティカルパス(※)を推進しています。
 - ※ 治療医とかかりつけ医が連携して診療にあたるためのツールで、患者さん自身が治療計画を把握するためにも役立ちます。
- 医療従事者の緩和ケアに関する知識と技術の向上を図るために緩和ケア研修会を開催しました。
- 本県に特化したがん情報を県民のみなさまに提供するための Web サイト「がん情報とちぎ」を管理しています。
- がん対策の立案と評価に不可欠な地域がん登録を実施しています。本県の登録精度は高い評価を受けていますが更なる向上に努めています。
- 地域医療機関との連携を強化する目的で「医療連携証」を発行しました。
入院患者の退院調整、外来患者の在宅支援、地域医療機関との連携強化を図り、入院から在宅医療への切れ目のないがん診療を推進するために医療連携証を発行し、がんセンターの診療機能をより深くご理解いただき、顔の見える連携を築くために講演会・情報交換会を開催しました。



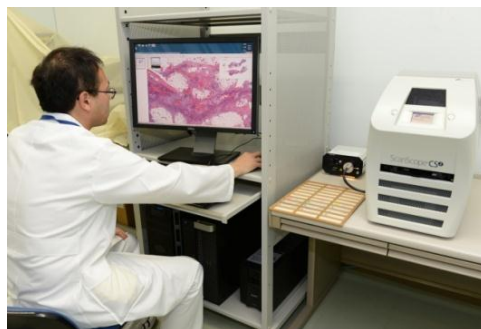
<医療連携記念講演会>

◇ がん専門病院としての取組

- がん画像診断の主軸であるCT検査の質向上のために最新型のCT装置に更新しました。
- 病理組織画像を遠隔地とリアルタイムに共有可能な「バーチャルスライドシステム」を導入しました。病院とのカンファレンスや病理医がいない病院への診断支援等に有用なシステムです。

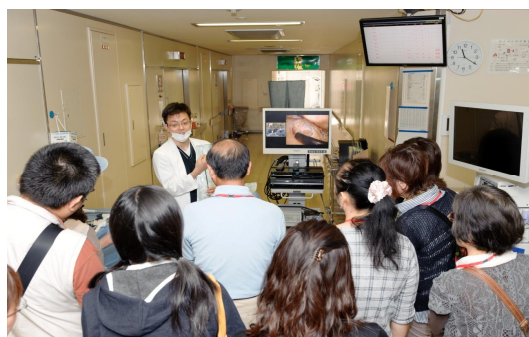


＜最新型のCT装置＞



＜バーチャルスライドシステム＞

- 市民公開講座、オープンキャンパスの開催、がんセンターだよりの発行等により、県民のみなさまにがん情報を発信しました。
- 精度の高いがん検診法の確立を目指して、がんセンターの診療機能を活用した「施設検診」を実施しています。



＜オープンキャンパス＞

- 県民の皆さまにがんセンターについての理解を深めていただくことを目的として、県庁物産展会場でPR活動を行いました。地域の方々と接する良い機会となりました。
- 医療安全推進運動の一環として医療安全百人一首を作成しました。全職員から医療安全をテーマとする短歌を募集し医療安全の啓発を図りました。



＜健康相談：県庁物産展会場＞



＜医療安全推進運動：医療安全百人一首＞

◇ その他

- 「栃木県立がんセンター経営改革プラン」に基づく改革に取り組みました。がんセンターの経営改善、経営形態の検討、地域連携ネットワークの充実等に関する経営改革プランを平成25年度まで延長し、改革の更なる推進を図ることとしました。

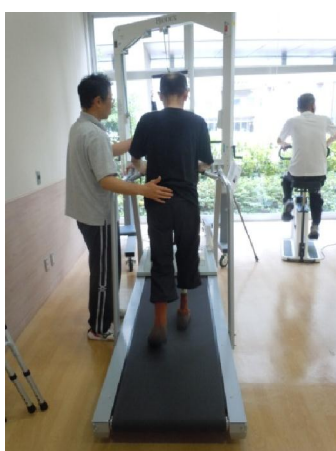
とちぎリハビリテーションセンター

病院の概要

主に運動器系や神経系に障害のある乳幼児から高齢者までの全年齢層の患者に対して、専門かつ高度なリハビリテーション医療を提供するとともに、障害児(者)に対する整形外科医療や小児神経疾患全般に係る医療を提供しており、とちぎリハビリテーションセンター(※)の中核的な施設となっています。

※ 乳幼児から高齢者に至る幅広い年齢層に対応し、障害を持つ方の自立と社会参加を促進することを目的として、病院、児童福祉施設、指定障害者支援施設及び相談・判定機関等で構成する複合施設です。

平成24年度の主な取組

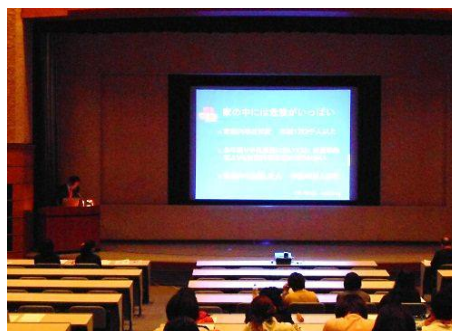


義足をつけての歩行訓練

- ◇ とちぎリハビリテーションセンターの更なる経営改善の推進、地域連携ネットワークの充実・強化、経営形態のあり方検討等を行うため、「とちぎリハビリテーションセンター病院部門改革プラン」に基づき改革を進めました。
- ◇ 平成24年度から、リハビリテーションの充実を図るため人員の確保や設備の整備を行い、土日・祝日を含めた入院患者の365日リハビリテーションを実施しています。また、小児の整形外科手術を再開しました。

- ◇ 病院スタッフが持っている医療情報などを、障害のある方々を支援する地域の皆様に還元し、障害のある方々の生活の質の向上や社会参加の促進に役立てていただくため、介護や障害者支援施設関係者・行政職員等を対象に「とちりハ病院研修会」や「出前講座」を開催し、知識の普及と関係機関との連携強化を図っています。

出前講座テーマ： たかが手すり、されど手すり
失語症を正しく理解するには
安全に食べるためには など



とちりハ病院研修会
「脳卒中のリハビリテーション」
～知っておきたい在宅支援の知識と技術～

- ◇ 脳卒中のリハビリテーションを経て在宅に戻られた方々を支援するために、研修等にリハビリテーション科医等を講師として派遣し、医療・相談機関との連携強化に努めました。
- ◇ 脳卒中に係る県内統一の地域連携クリティカルパスに基づき、回復期医療機関として、急性期医療機関やかかりつけ医等との医療連携を図りました。さらに平成24年9月からは大腿骨頸部骨折に係る地域連携クリティカルパスの運用も開始し、より一層の地域医療連携を進めました。